

今や世界中で会員数9億人を突破し、5月にはナスダックに歴史上場も果たしたフェイスブック（以下FB）であるが、地域別では1億5000万人を誇る米国での会員数は、2011年度に初めて減少に転じ600万人が退会したという。同様のことは英国やカナダなどでも顕著で、「FB疲れ・FB離れ」などとささやかれて来た。

原因はセキュリティ問題や、FB上でのゴシップ合戦、寄付などを装い金銭詐欺をするサイバー犯罪など“重いもの”から、頻繁なソーシャルアプリへの勧誘、あからさまな人間関係、「嫌な人からの友達リクエストを断りにくい」や、「義理で“いいね”ボタン押さないといけない」などの生々しいものまで様々だ。

もともとネットや携帯が普及し始めた時、人はそれぞれ24時間つながっている状態になったことに気付いたが、プライバシーは一応保たれていた。しかしSNSは完全にその壁を取り払い、楽しいことだけでなく問題や不安などを含む人間生活の可視化が起こり、その結果、それだけでなく忙しい毎日を歩む我々が、さらにサイバー世界においても重荷を背負ってしまったように見える。

FB創業者のザッカーバーグ氏はユダヤ人だが、実は聖書にはややこしいカタカナの人々“Face”が沢山の個人情報と共に出てくる。「誰その子」とか「誰その妻」、さらにはそれぞれが、どこでいつ何をしたかということが詳述されている。が、それを運営しているSNSはFBではなく「平和の君」と呼ばれるキリストだ。そして

**「全て、疲れた人、重荷を負っている人は、私のところに来なさい。**

**私があなたがたを休ませてあげます。」マタイの福音書 11章 28節**

と、優しく招いてくださる。聖書は、より“ややこしくなった”人間社会を軽々と乗り越え平和に導く“Faith book”、信仰の書なのだ。

